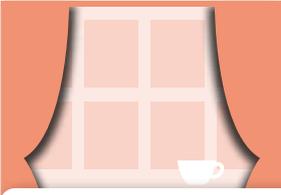




ジョーの窓辺…………… No.10

「広報とよやま」に毎月コラムを書きます。びっくりしたこと、日本で生活し、ちょっと困ること、日本のいいことなど、たっぷり書きたいと思います。



「お土産と聞いて何を連想する?」と聞かれたら、「職場で配られる一口サイズの菓子」と答える。お土産は配ることもいただくことも好きだが、ネットで検索したところ、お土産に対する日本在住の外国人の反応は様々だ。「うなぎパイ大好き。」や「美味しくない。」や「買うのが面倒くさい。」といったコメントが山ほどある。確かに、味が薄すぎるものもあるが、自分用に購入したいぐらい美味しいものもある。

アメリカではお土産(お菓子)を買って職場などで配る習慣がない。旅行先で家族や友人にコーヒ豆や、ぬいぐるみ、食器などを買ってくることは一般的だが、「同僚にお土産を買う。」という発想はない。

なぜ、アメリカでお土産を買うという習慣が生まれなかったのだろうか。それは、日本と違い、アメリカの食べ物は地域性が強くないことが理由の一つと考えられる。例えば、ニューハンプシャー州のニューイングランド市に行かなくても、「ニュー・イングランド・クラムチャウダー」はシアトルでもニューヨークでも食べることができる。だからその場所の名産品を買って来て人に振る舞うといった発想が生まれなかったのではないかと思う。

アメリカ出身の僕は、来日してから色々なお土産をいただくことで、愛知県だけでなく、日本全国の名産品と日本人の好む味のお菓子を食べることができてとても楽しい。今まで食べ

た名産品の中で一番のお気に入りには『なが餅』だ。四日市の僕の好きな陶芸家の方のお宅にお邪魔した時に、お茶とともに出してくれたものだ。「これは美味しい。」と感動し、職場と自分用に一箱ずつ購入した。なが餅は三重県の四日市の名産品であり、柔らかく少し焼いた細長い餅の中に粒あんが入っていてお茶によく合うお菓子だ。僕は昔から、朝起きてお茶を飲みながら小さなお菓子を食べ、「今日一日、前向きでポジティブに頑張ろう。」と気持ちを整える時間を大切にしているが、その時に地方の名産品である小さなお菓子はぴったりだ。

これからの目標は、全国を回って色々なお土産を買って味見をしてみたい。次は四国に行こうかな。



なが餅

英語のワンポイントレッスン

I'm going to buy souvenirs
(お土産を買います)

第51回人権を理解する作品コンクール

人権を題材としたポスター・書道・標語の作品を募集します。小・中学生の皆さんからのご応募をお待ちしています。

▼**応募規定** 「いじめ」、「児童虐待」、「障がいのある人」、「インターネットにおける人権侵害」などをテーマとした作品を募集します。作品に「応募票」を貼付の上、提出してください。詳細は名古屋法務局のホームページをご覧ください。

▼**募集期間** 10月16日(月)～12月8日(金)

▼**応募・問合せ** 名古屋法務局人権擁護部

〒460・8513 名古屋市中区三の丸2・2-1
☎052・952・8111(内線1465)

